

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 国語表現基礎

教科：国語 科目：国語表現基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～4組

教科担当者：（1組：松原・佐藤）（2組：松原・佐藤）（3組：松原・佐藤）（4組：松原・八神）

使用教科書：（現代の国語 第一学習社 パスポート国語必携 桐原書店）

教科 国語 の目標：生活していく上で基本となる知識や表現力を身に付ける。

【知識及び技能】語句の意味を理解し、文脈に合わせて適切な表現をしようとしている。

【思考力、判断力、表現力等】他者と意見を共有して、自分の考えを深めようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】課題に興味を示し、主体的に取り組もうとしている。

科目 国語表現基礎 の目標：文章作成や発表を通じて、豊かな表現力を身に付ける。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な語句の意味を理解し、文脈に合わせて適切な表現をしようとしている。	課題に対して、他者と意見を共有し、自分の考えを深めようとしている。	課題に興味を示し、主体的に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A 自己PRと面接 自分を見つめる 将来に向かって歩みを進めるために、「自分」を的確に他者にアピールする力を身に付ける。	・自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望を持つ。 ・就職や進学における面接対策の一環としての言語活動全般を行い、応用力を養っていく。 ・毎回漢字小テストと実施し、言語の基礎基本を身に付ける。	○	○	○	【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、文章を作成している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「自分」を他者にアピールするための方法を粘り強く考え、文章構成を工夫しようとしている。	○	○	○	15
	確認テスト①						○	○		1
	B 小論文、レポート入門、就職試験用のテーマ作文 自分について表現する 将来に向かって歩みを進めるために、「自分」を的確に他者にアピールする力を身に付ける。	・自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望を持つ。 ・就職や進学における面接対策の一環としての言語活動全般を行い、応用力を養っていく。 ・毎回漢字小テストを実施し、言語の基礎基本を身に付ける。	○	○	○	【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、文章を作成している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「自分」を他者にアピールするための方法を粘り強く考え、文章構成を工夫しようとしている。	○	○	○	14
	確認テスト②							○	○	
2 学 期	C 自己PRと面接 将来の自分を考える 将来に向かって歩みを進めるために、「自分」を的確に他者にアピールする力を身に付ける。	・自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望を持つ。 ・就職や進学における面接対策の一環としての言語活動全般を行い、応用力を養っていく。 ・毎回漢字小テストと実施し、言語の基礎基本を身に付ける。	○	○	○	【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、文章を作成している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「自分」を他者にアピールするための方法を粘り強く考え、文章構成を工夫しようとしている。	○	○	○	14
	確認テスト③		○	○			○	○		1
	D メディアを駆使する 手紙・電話・メールを使いこなす 将来に向かって歩みを進めるために、「自分」を的確に他者にアピールする力を身に付ける。	・自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望を持つ。 ・就職や進学における面接対策の一環としての言語活動全般を行い、応用力を養っていく。 ・毎回漢字小テストと実施し、言語の基礎基本を身に付ける。	○	○	○	【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、文章を作成している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「自分」を他者にアピールするための方法を粘り強く考え、文章構成を工夫しようとし	○	○	○	13

[illegible]

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

国語 科目 現代文演習

教科：国語

科目：現代文演習

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 組～ 組

教科担当者：（ 組：松原 ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

教科 国語 の目標：生活していく上で基本となる知識や表現力を身に付ける。

【知識及び技能】語句の意味を理解し、文脈に合わせて適切な表現をしようとしている。

【思考力、判断力、表現力等】他者と意見を共有して、自分の考えを深めようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】課題文に関心を抱き、主体的に取り組もうとしている。

科目 現代文演習 の目標：基礎レベルから大学入試レベルへとステップアップしながら総合的な学力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・漢字の「読み・書き・意味」を定着する ・語彙や国語の一般常識を増やす	・文の組み立てを見抜く 文と文とのつながりを捉える ・段落の相互関係を読み取る	・課題文に関心を抱き、主体的に問題に取り組む

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数		
			話・聞	書	読							
1 学 期	問題演習 【知識及び技能】 語彙・国語常識を増やす 【思考力、判断力、表現力等】 文の組み立てを見抜く 【学びに向かう力、人間性等】 課題文に関心を抱き、主体的に問題に取り組む	・指導事項 漢字の小テスト 問題演習				【知識及び技能】 ・主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。		○	○	○	11	
	授業内テスト①					○	○	○			1	
	問題演習 【知識及び技能】 語彙・国語常識を増やす 【思考力、判断力、表現力等】 文の組み立てを見抜く 【学びに向かう力、人間性等】 課題文に関心を抱き、主体的に問題に取り組む	・指導事項 漢字の小テスト 問題演習				○	○		○	○	○	12
	授業内テスト②						○	○	○			1
2 学 期	問題演習 【知識及び技能】 語彙・国語常識を増やす 【思考力、判断力、表現力等】 文の組み立てを見抜く 【学びに向かう力、人間性等】 課題文に関心を抱き、主体的に問題に取り組む	・指導事項 漢字の小テスト 問題演習				○	○		○	○	○	14
	授業内テスト③						○	○	○			1
	問題演習 【知識及び技能】 語彙・国語常識を増やす 【思考力、判断力、表現力等】 文の組み立てを見抜く 【学びに向かう力、人間性等】 課題文に関心を抱き、主体的に問題に取り組む	・指導事項 漢字の小テスト 問題演習				○	○		○	○	○	14
	授業内テスト④						○	○	○			1
	問題演習 【知識及び技能】 語彙・国語常識を増やす 【思考力、判断力、表現力等】 文の組み立てを見抜く 【学びに向かう力、人間性等】 課題文に関心を抱き、主体的に問題に取り組む	・指導事項 漢字の小テスト 問題演習				○	○		○	○	○	14

[illegible]

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科		地理歴史	科目	歴史総合
教科：	地理歴史	科目：	歴史総合	単位数：2 単位
対象学年組：第	3 学年	1 組～	4 組	
教科担当者：	（1組：西）	（2組：西）	（3組：西）	（4組：西）
使用教科書：	（『改訂版 私たちの歴史総合 資料から読み解く近現代の日本と世界』清水書院）			
教科	地歴	の目標：		

【知識及び技能】	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	地理や歴史に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる今日的な課題の解決に向けての構想力、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	地理や歴史に関する諸事象について、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する深い理解、他国や多文化主義の考え方を尊重することなどの自覚を深める。

科目	歴史総合	の目標：	
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べま とめる技能を身につける。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的、多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決や視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それをもとに議論したりする力を養う。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的、多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	歴史の扉 ・高校の歴史学習の動機付けと以後 の学習に必要な歴史学習の基本的な 技能や学び方を身につけさせる。	・指導事項：・空間的な広がりや自 己との関係性を意識した学習へと視 野を広げさせる。 ・現代に生きる生徒が、過去の事象 を考察するために、資料を活用する 学習を通して、歴史の叙述には、諸 資料の検証と論理性などが求められ ることに気づかせる。 ・教材：教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基 に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつな がっていることを理解している。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解してい る。 【思考・判断・表現】 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの 歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との 関連性について考察し、表現している。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取っ た情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中学校社会科における学習の成果を生かし、必修科目 である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方 法やその特質について、主体的に理解を深めようとしてい る。	○	○	○	4
	近代化と私たち ・17世紀を含めた18世紀とその前後 の日本やアジアにおける生産と流 通、江戸幕府の4つの口や周辺地域 との貿易などを基に、18世紀の日本 からみた東アジアの政治・経済と社 会を理解している。 ・18世紀とその前後のヨーロッパや アメリカ大陸、オスマン帝国におけ る生産と流通、アヘン戦争やペリー 来航をはじめアジアと欧米諸国の関 係などを基に、18世紀とその前後の 世界の政治と社会を理解している。 ・19世紀後半のヨーロッパの動きと 日本の明治政府の政策、日本と欧米 諸国の外交関係などを基に、19世紀 後半のヨーロッパと日本との経済と 社会を理解している。 ・19世紀から20世紀初頭にかけての 欧米諸国の帝国主義の動き、日本と 東アジアの関係、アジア各地域間や アジア諸国と欧米諸国の進出などを 基に、19世紀から20世紀初頭かけ てののアジアの政治と社会を理解し ている。	・指導事項：「近代化への胎動」 「欧米の市民革命と西洋の衝撃」 「欧米諸国と日本の国民国家形成」 「帝国主義とアジア、アフリカの変 容」「近代化と現代的な諸課題」 ・教材：教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおけ る生産と流通、18世紀から19世紀にかけての日本・清など アジア諸国の政治・経済を理解している。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマ ン帝国における政治、各地域間や清や日本などアジア諸国 と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀とその前後の世界の 経済と社会を理解している。 ・19世紀後半のヨーロッパや日本における政治、ヨーロッ パ各地域間や日本と欧米諸国の関係などを基に、19世紀後 半のヨーロッパと日本の政治と社会を理解している。 ・19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアや日本における 生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿 易などを基に、19世紀から20世紀初頭のアジアの経済と社 会を理解している。 【思考・判断・表現】 ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおけ る生産・流通の変化に着目して、主題を設定し、東アジア 諸地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなど して、17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアに おける経済活動の特徴、清などアジア諸国との関係などを 多面的・多角的に考察し、表現している。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマ ン帝国のできごとや影響などに着目して、主題を設定 し、世界各地域の動向を比較したり、相互に関連付けたり するなどして、18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ 大陸、東アジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地 域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面 的・多角的に考察し、表現している。 ・19世紀後半の欧米諸国が日本に与えた影響などに着目し て、主題を設定し、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向 を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀 後半のヨーロッパにおける政治活動の特徴、ヨーロッパ各 地域間の関係、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多 角的に考察し、表現している。 ・19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義が 世界に与えた影響などに着目して、主題を設定し、ヨー ロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に關 連付けたりするなどして、19世紀から20世紀初頭の日本に おける政治の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と 欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現し ている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおけ	○	○	○	20

			る生産と流通の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸とアジアとの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・19世紀後半のヨーロッパの動きと日本との関連に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・帝国主義や日本のアジア進出に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
2 学 期	国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。	・指導事項：「第一次世界大戦と大衆社会」「経済危機と第二次世界大戦」「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」 ・教材：教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 【思考・判断・表現】 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・20世紀初頭から戦間期にかけての日本を中心に世界的な動きと関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・世界恐慌やナチス・ドイツ誕生の頃から第二次世界大戦の後の日本の独立回復までの日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	20
	グローバル化と私たち ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解	・指導事項：「冷戦と国際政治」「多極化する世界」 ・教材：教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の				

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科		公民	科目	公民教養
教 科：	公民	科 目：	公民教養	単位数： 2 単位
対象学年組：	第 3 学年 1 組～ 4 組			
教科担当者：	（ 中竹 ）			
使用教科書：	（ 自作教材にて対応 ）			
教科	公民	の目標：		
【知 識 及 び 技 能】		自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するために必要な政治・経済の仕組みを理解する。 現代社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につける		
【思考力、判断力、表現力等】		法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題に対し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する		
【学びに向かう力、人間性等】		現代社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする		

科目	公民教養	の目標：
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】
公共で学んだ基礎知識を復習し、確実に身に付ける 先哲の思想について、理解を深める 現代社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身につける		先哲の思想を理解し、人間としての生き方について考察する コメントシート・1分間スピーチを通して、自己の考察を表現する
		【学びに向かう力、人間性等】
		現代社会の諸課題について、公民の一員としてよりよい社会の実現を視野に、主体的に解決しようとする

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	公民としての基礎知識を確認する	・公共の学習内容復習 ・青年期における自己の在り方 ・法、政治、経済の基礎用語	【知識・技能】 公共で学習した内容を身に付け、その知識をもとに自身の考察をまとめることができる 【思考・判断・表現】 青年期の在り方生き方について、考察し、表現することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 将来の在り方生き方について、主体的に考察する態度を養っている	○		○	10
	思想の源流について、知識を身に付け、自己の在り方生き方を考察する	・世界三大宗教	【知識・技能】 世界三大宗教について、基礎知識を身に付け、特色を理解している 【思考・判断・表現】 先哲の思想を参考にし、自身の考察を表現することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 宗教について関心を持ち、主体的に考察する態度を養っている	○	○		10
2 学 期	思想の源流について、知識を身に付け、自己の在り方生き方を考察する	・ギリシア三大哲学者の思想 ・中国思想	【知識・技能】 先哲の思想について、基礎知識を身に付け、特色を理解している 【思考・判断・表現】 先哲の思想を参考にし、自身の考察を表現することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 先哲の思想について関心を持ち、主体的に考察する態度を養っている	○	○		15
	日本思想と近代西洋思想について、知識を身に付け、自己の在り方生き方を考察する	・日本の風土と文化 ・合理論と経験論 ・功利主義 ・実存主義 ・道徳哲学	【知識・技能】 先哲の思想について、基礎知識を身に付け、特色を理解している 【思考・判断・表現】 日本思想と西洋思想の比較を通して、自身の考察を表現することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 先哲の思想について関心を持ち、主体的に考察する態度を養っている	○	○		15
3 学 期	現代社会の諸課題	・生命倫理 ・環境倫理 ・情報社会	【知識・技能】 現代社会の諸課題について、基礎知識を身に付け、特色を理解している 【思考・判断・表現】 これまで学習した内容を踏まえて、現代社会の諸課題について、自身の考察を表現することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養っている		○	○	20
							合計 70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

数学 科目 数学A

教科： 数学

科目： 数学A

単位数 2 単位

対象学年組： 第

3 学年

1 組～

4 組

教科担当者： （池浦・萩原・松井）

使用教科書： （東京書籍 数学A Essence（改訂版））

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	場合の数と確率 ・数え上げの原則 ・順列 ・組合せ 【知識及び技能】 ・和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象の場合の数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・樹形図 ・和の法則と積の法則 ・順列と組み合わせ	【知識及び技能】 ・和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象の場合の数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	12
	確認テスト			○	○		1
	場合の数と確率 ・順列の利用 ・重複順列 ・円順列 ・組合せの利用 【知識及び技能】 ・和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象の場合の数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・順列の利用 ・重複順列 ・円順列 ・組合せの利用		○	○	○	12
	確認テスト			○	○		1
2 学期	場合の数と確率 ・確率の意味 ・確率の計算 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率 【知識及び技能】 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	・確率の意味 ・確率の計算 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率	【知識及び技能】 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	○	○	○	14
	確認テスト			○	○		1
	図形の性質 ・三角形と比 ・角の二等分線と比 ・三角形の重心・外心・内心 【知識及び技能】 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係や既学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・三角形と比 ・角の二等分線と比 ・三角形の重心・外心・内心	【知識及び技能】 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 ・図形の構成要素間の関係や既学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	14
	確認テスト			○	○		1
3 学期	図形の性質 ・円周角の定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 【知識及び技能】 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係や既学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・円周角の定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線	【知識及び技能】 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係や既学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	13
	確認テスト			○	○		1

合計
70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

数学 科目 数学活用

教 科： 数学 科 目： 数学活用

単位数 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 必修選択科目 選択生徒

教科担当者： 萩原

使用教科書： （ 自校作成 ）

教科 数学

の目標：

【知 識 及 び 技 能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学活用

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学Ⅰや数学Aで学んだ考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解を深めていくとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力に注目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
1 学 期	2次不等式(数学Ⅰ) 空間図形の三角比(数学Ⅰ) 【知識及び技能】 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を2次不等式や三角比の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・2次不等式 ・空間図形と三角比	【知識及び技能】 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を2次不等式や三角比の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	12
	確認テスト			○	○		1
	命題と集合(数学Ⅰ) 【知識及び技能】 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を集合と論証の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・命題と集合 ・命題と証明	【知識及び技能】 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を集合と論証の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	12
	確認テスト			○	○		1
2 学 期	数学と人間の活動(数学A) 【知識及び技能】 ・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 ・数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ・パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・5進法と2進法 ・n進法	【知識及び技能】 ・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 ・数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ・パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	14
	確認テスト			○	○		1
	数学と人間の活動(数学A) 【知識及び技能】 ・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 ・数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ・パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・ユークリッドの互除法 ・合同式	【知識及び技能】 ・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 ・数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ・パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	14
	確認テスト			○	○		1
3 学 期	図形の性質 【知識及び技能】 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・接線と弦のつくる角 ・方べきの定理 ・2つの円	【知識及び技能】 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	13
	確認テスト			○	○		1

合計
70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

理科

科目 理科演習

教科：理科

科目：理科演習

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年

必修選択科目 選択生徒

教科担当者：（木原）

使用教科書：（生基704「高校生物基礎」 実教出版
物基704「高校物理基礎」 実教出版
化基705「高校化学基礎」 実教出版）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。

観察・実験などを行い、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し、科学的に探究する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】物質とその変化に主体的に関わり、主体的に探究しようとする態度を身に付けている。

科目 理科演習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
1 学 期	3章 物質の変化 2節 酸と塩基	・酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	【知識・技能】 酸・塩基と中和について理解するとともに、器具の扱い方や溶液の調製方法など滴定操作における基本的な技能を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】 酸・塩基と中和についての観察、実験を行い、中和反応に関与する物質の量的関係を科学的に探究する力を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 酸・塩基と中和に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。（行動観察、提出課題）	○	○	○	13
	確認テスト①						1
	3章 物質の変化 3節 酸化還元反応	・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。また、酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。	【知識・技能】 酸化と還元について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】 酸化と還元についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 酸化と還元に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。（行動観察、提出課題）	○	○	○	13
	確認テスト②						1
2 学 期	第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境	・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解させる。 ・恒常性により、体内環境が保たれていることを理解させる。 ・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。	・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 ・腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。（確認テスト） ・腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。（確認テスト・課題提出） ・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。（ワークシート・授業態度）	○	○	○	14
	確認テスト③						1
	第3章 ヒトのからだの調節 3節 免疫	・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解させる。 ・病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。 ・免疫のしくみの概要を取り上	・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 ・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。（確認テスト） ・資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。 ・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に	○	○	○	13

		げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察させる。 ・ヒトの身近な免疫疾患について理解させる。	考察し、表現することかである。 ・ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。 (確認テスト・課題提出) ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。 (ワークシート・授業態度)	○	○	○	13
	確認テスト④						1
3 学 期	4章 電気 1節 物質と電流 1 静電気と電子 2 電流と電気抵抗 2節 磁場と電流 1 磁場 2 電磁誘導	・静電気について、理解する。 ・電流と電気量について理解する。 ・電磁誘導について理解する。	【知識・技能】オームの法則を用いて、抵抗に流れる電流を求めることができる。(確認テスト) 抵抗の接続のしかたと各抵抗にかかわる電流・電圧の関係を求めることができる。(確認テスト) 【思考・判断・表現】電気に関する基本的な概念や原理・法則を理解できる。(ワークシート) 【主体的に学習に取り組む態度】実験を通じて、金属線の長さ・太さと抵抗の関係を見いだそうとする。(ワークシート)	○	○	○	13
	確認テスト⑤						
							合計
							70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 4 組

教科担当者： （1組： 山内・大村・高島） （2組： 山内・大村） （3組： 山内・大村・高島） （4組： 山内・大村・高島）

使用教科書： （ 現代高等保健体育 大修館書店 ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】各種の運動の特性に応じた技能を理解し、身に付けるようにする。社会生活における健康・安全について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむと共に健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解すると共に、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断すると共に自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育てると共に、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元「体づくり運動」 【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組める力を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 自主的に取り組むとともに、互いの助け合いを教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとするなどや、健康・安全を確保する態度を養う。	「縄跳び」 ・大縄跳び 「体力テスト」 ・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横跳び ・立ち幅跳び ・ハンドボール投げ	【知識・技能】 ・定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解している。 ・のびのびとした動作で用具などをを用いた運動を行うことを通して、気付いたり関わったりすることができる。 【思考・判断・表現】 ・ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。 ・課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見つけ、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。 ・仲間の課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。	○	○	○	30
	E 単元「球技」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	【種目選択】① 「バスケットボール」 「バドミントン」 「卓球」 【種目選択】② 「バレーボール」 「フットホッケー」 「卓球」	【知識・技能】 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。 ・「ネット型」：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 ・「ゴール型」：①ボールをコントロールしてパスやシュートができる。②空間を作り出すための動きをすることができる。 【思考・判断・表現】 ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘すること。 ・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見すること。 ・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案すること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	○	○	○	
2 学 期	E 単元「球技」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	【種目選択】③ 「バスケットボール」 「バドミントン」 「卓球」 【種目選択】④ 「バレーボール」 「サッカー・フットホッケー」 「卓球」	【知識・技能】 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。 ・「ネット型」：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 ・「ゴール型」：①ボールをコントロールしてパスやシュートができる。②空間を作り出すための動きをすることができる。 【思考・判断・表現】 ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘すること。 ・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見すること。 ・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案すること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	○	○	○	32
	H 単元「体育理論」 【知識及び技能】	「生涯スポーツの見方・考え方」 「ライフスタイルに応じたスポーツ」	【知識及び技能】 生涯におけるスポーツの役割、健康増進と体力向上の重要性、スポーツの楽しさや意義、スポーツのルールやマナー、スポーツの歴史や文化、スポーツの未来などについて理解し、自己や社会の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える力を養う。				

年間授業計画

中野工科 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科		外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ
教 科：	外国語	科 目：	英語コミュニケーションⅡ	単位数： 2 単位
対象学年組：第 3 学年				
教科担当者：加藤・久保・竹内				
使用教科書：（ VISTA English CommunicationⅡ（三省堂）				
教科	外国語	の目標：		

【知 識 及 び 技 能】	4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技術を身につける。また、学習を通じて、言語の働きや役割などを理解する。
【思考力、判断力、表現力等】	場面、目的、状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合う。また、聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現する。
【学びに向かう力、人間性等】	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現する。また、言語やその背景にある文化に対する関心を持って自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の発音や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、放して、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書					
1 学 期	B 単元 Lesson2 A Piece of Cake 日本語と英語の慣用句に関する英文から、概要や要点を読み取ったり、まとめたりする。	【指導事項】 ・疑問詞やifで始まる節 ・質問や相づち表現 ・ことわざについて 【教材】 ・教科書 ・ワークシート ・一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 ・疑問詞やifで始まる節を使用した教科書の文を読み、理解している。 ・疑問詞やifで始まる節を適切に使用する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・慣用句についての概要や要点、必要な情報を聞き取り、質問に適切に答えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に授業に参加し、考えや情報を伝えようとしている。	○	○	○	12
	確認テスト①			○			○		○	○		
	C 単元 Lesson3 Quokka Ouokkaについての英文から、概要や要点を読み取ったり、まとめたりする。	【指導事項】 ・Let、知覚動詞 ・提案や依頼する表現 ・野生動物について 【教材】 ・教科書 ・ワークシート ・一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 ・知覚動詞を使用した教科書の文を読み、理解している。 ・知覚動詞を適切に使用する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・提案や依頼をするダイアログを聞いて、他者に提案や依頼を伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に授業に参加し、考えや情報を伝えようとしている。	○	○	○	13
	確認テスト②			○				○		○		
2 学 期	E 単元 Lesson5 Mont-Saint-Michel Mont-Saint-Michelについての英文から要点を読み取ったり、自分自身の意見を交換したりする。	【指導事項】 ・現在完了 ・過去完了 ・Mont-Saint-Michelの存在について 【教材】 ・教科書 ・ワークシート ・一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 ・現在完了、過去完了を使用した教科書の文を読み、理解している。 ・現在完了、過去完了を使って、物事の説明する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・人を誘うダイアログを聞いて、必要な情報を捉えている。人を誘う表現を用いて、他者に手紙を書いている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に授業に参加し、考えや情報を伝えようとしている。	○	○	○	15
	確認テスト③			○			○		○	○		
	E 単元 Lesson6 Smart Agriculture Smart Agricultureについての英文から要点を読み取ったり、自分自身の意見を交換したりする。	【指導事項】 ・現在完了受動態 ・助動詞＋受動態 【教材】 ・教科書 ・ワークシート ・一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 ・現在完了受動態、助動詞＋受動態を使用した教科書の文を読み、理解している。 ・現在完了受動態、助動詞＋受動態を使って、物事の説明する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・先端技術を用いた社会的課題の解決について考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に授業に参加し、考えや情報を伝えようとしている。	○	○	○	15
	確認テスト④			○				○		○		
	E 単元 Lesson7 A martial Art on Tatami	【指導事項】 ・関係代名詞の非制限用法 ・関係代名詞what						【知識及び技能】 ・関係代名詞の非制限用法、関係代名詞whatを使用した教科書の文を読み、理解している。				

[illegible]

年間授業計画

中野工科 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

外国語

科目

選択 発展英語

教科： 外国語

科目： 選択 発展英語

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年

教科担当者：加藤

使用教科書：（ 自作教材にて対応 ）

教科 外国語

の目標：

【知識及び技能】

4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技術を身につける。また、学習を通じて、言語の働きや役割などを理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

場面、目的、状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合う。また、聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現する。また、言語やその背景にある文化に対する関心を持って自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 選択 発展英語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の発音や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、放して、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
1 学 期	基本事項の確認①②③ 過去形①	3人称単数現在 現在形の疑問文・否定文 命令文 There is 構文 代名詞 be 動詞・一般動詞の過去形	○	○	○	○	○	3人称単数現在 現在形の疑問文・否定文 命令文 There is 構文 代名詞 be 動詞・一般動詞の過去形 について理解する。	○	○	○	12
	確認テスト①			○			○		○	○		
	過去形② 進行形 未来を表す表現	一般動詞の過去形・不規則動詞 現在進行形・過去進行形 will/be going to	○	○	○	○	○	一般動詞の過去形・不規則動詞 現在進行形・過去進行形 will/be going to について理解する	○	○	○	13
	確認テスト②			○			○		○	○		
2 学 期	現在完了①②③④	不規則動詞活用表 現在完了（継続用法・経験用法・完了用法）	○	○	○	○	○	不規則動詞活用表 現在完了（継続用法・経験用法・完了用法） について理解する	○	○	○	15
	確認テスト③			○			○		○	○		
	現在完了⑤⑥ 助動詞①②	現在完了進行形 can/be able to must/have to	○	○	○	○	○	現在完了進行形 can/be able to must/have to について理解する	○	○	○	15
	確認テスト④			○			○		○	○		
	助動詞③④	may/should/shall						may/should/shall について理解する				

[illegible]

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

家庭

科目 保育基礎

教科： 家庭

科目： 保育基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 4 組

教科担当者： （1 組： 成田 ） （2 組： 成田 ） （3 組： 成田 ） （4 組： 成田 ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書： （ 保育基礎 教育図書 ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な知識・技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う

科目 保育基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	子どもの発達と保育理論 【知識及び技能】 子どもの発達や保育理論に関する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関する諸問題に対して、解決するために自分の意見を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。	○子どもの遊び ○発達段階における乳幼児期 ○子どもの発達の特徴 ○子どもの食生活	【知識及び技能】 子どもの発達や保育理論に関する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関する諸問題に対して、解決するために自分の意見を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	28
	保育に関する実習・制作 【知識及び技能】 保育に関連する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関連する実習について、子どものより良い発達に向けた工夫をしている。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。	○カレンダー製作 ○ティディベア製作 ○離乳食・幼児食体験 ○保育園実習	【知識及び技能】 保育に関連する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関連する実習について、子どものより良い発達に向けた工夫をしている。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。 (ワークシート・作品)	○	○	○	
	小テスト			○	○		1
2 学期	子どもの発達と保育理論 【知識及び技能】 子どもの発達や保育理論に関する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関する諸問題に対して、解決するために自分の意見を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。	○子どもの衣生活・住生活 ○子どもの健康と安全	【知識及び技能】 子どもの発達や保育理論に関する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関する諸問題に対して、解決するために自分の意見を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	30
	保育に関する実習・制作 【知識及び技能】 保育に関連する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関連する実習について、子どものより良い発達に向けた工夫をしている。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。	○保育おもちゃ制作 ○調理実習 ○保育園実習	【知識及び技能】 保育に関連する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関連する実習について、子どものより良い発達に向けた工夫をしている。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。 (ワークシート・レポート・作品)	○	○	○	
	小テスト			○	○		1
	子どもの発達と保育理論 【知識及び技能】 子どもの発達や保育理論に関する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関する諸問題に対して、解決するために自分の意見を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】	○保育の意義と理念 ○保育の方法 ○児童福祉と子育て支援	【知識及び技能】 子どもの発達や保育理論に関する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関する諸問題に対して、解決するために自分の意見を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。	○	○	○	

3 学 期	【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。		【ワークシート・レポート】				15	
	保育に関する実習・制作 【知識及び技能】 保育に関連する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関連する実習について、子どものより良い発達に向けた工夫をしている。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。	○実習	【知識及び技能】 保育に関連する知識や技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】 保育に関連する実習について、子どものより良い発達に向けた工夫をしている。 【学びに向かう力、人間性等】 保育に関心を持ち、意欲的に学習に参加している。 （ワークシート・レポート）	○	○	○		
	小テスト			○	○			1
							合計	70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3 学年用）			教科	家庭	科目	日本と世界の食文化
教 科： 家庭		科 目：	日本と世界の食文化		単位数：	2 単位
対象学年組：第 3 学年 3 組～		4 組				
教科担当者：（3 組：時安）		（4 組：時安）		（ 組：	）	（ 組：
使用教科書：（ フードデザイン Food Changes LIFE 教育図書		）				
教科 家庭 の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を通し、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する。						
【知 識 及 び 技 能】		生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な知識・技能を身に付けるようにする。				
【思考力、判断力、表現力等】		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。				
【学びに向かう力、人間性等】		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う				
科目 日本と世界の食文化 の目標：		日本と世界の食文化を理解し、多様性を尊重しながら、持続可能で健康的な食のあり方を主体的に考え、生活に生かす力を育成する。				

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本の食文化について、歴史的背景、地域差、行事食、食材・調理法などの特徴を理解し、説明できる。世界の食文化について、宗教・気候・歴史・社会制度などの要因と関連づけて理解する。 食材の選択、調理、食事マナーなど、文化的背景を踏まえた基本的な技能を身につける	日本と世界の食文化を多角的に比較し、共通点・相違点を論理的に説明できる。 食文化の違いを文化的多様性として捉え、偏見なく理解する視点をもつ。 調査・実験・体験活動を通して得た情報を整理し、レポート・発表などで適切に表現できる	日本と世界の食文化に関心をもち、学習内容を自分の生活や将来の食選択に結びつけて考えようとする。 異文化の食を尊重し、多様な価値観を理解しようとする態度を身につける。 食に関する社会的課題に対して、自ら情報を収集し、よりよい解決策を探索しようとする。 健康的で持続可能な食生活を実践しようとする意欲をもつ。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1 食文化とは何か 【知識・技能】 ・食文化の定義や構成要素を理解し、説明できる ・食文化の形成要因（自然・歴史・宗教・社会）を整理して理解できる 【思考・判断・表現】 ・食文化が多様になる理由を論理的に説明できる ・自分の経験と学んだ知識を関連づけて考察できる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食文化への関心をもち、授業内容に積極的に参加する ・自分の食生活を振り返り、学習とのつながり 2 日本の食文化 【知識・技能】 ・日本の食文化の歴史的理解する ・和食の特徴・行事食・地域食文化を整理して説明できる ・日本の食マナーや食卓文化の基本を理解する 【思考・判断・表現】 ・日本の地域差や歴史的背景を踏まえて、食文化の特徴を比較・分析できる ・日本の食をめぐる現代課題について説明できる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本の食文化の価値を理解し、地域や伝統に関心をもつ ・自分の生活に日本の食文化を取り入れようとする姿勢が見られる	①オリエンテーション ・食文化とは何かを考える ②食文化の定義と構成要素 ・気候・地理・宗教・歴史・社会制度との関係理解 ③食文化の形成要因 ・自然環境 ・気候、地形、農業との関連 ①日本の食文化の歴史 ・食文化の変遷を理解する ②和食の特徴（ユネスコ無形文化遺産） ・多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重 ・健康的な食生活を支える栄養バランス ・自然の美しさや季節の移ろいの表現 ・正月など年中行事との密接なかわり ③行事食・年中行事と食 ・正月とおせち料理について ④地域食文化 ・各地の気候風土と郷土料理のかかわり ⑤日本の食マナー・食卓文化 ・配膳、箸の使い方 ⑥日本の食をめぐる現代課題 ・少子高齢化・食料自給率 【調べ学習】 ・行事食について ・郷土料理について ・食生活を巡る課題について	【知識・技能】 ・食文化の定義や構成要素を理解し、説明できる ・食文化の形成要因（自然・歴史・宗教・社会）を整理して理解できる 【思考・判断・表現】 ・食文化が多様になる理由を論理的に説明できる ・自分の経験と学んだ知識を関連づけて考察できる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食文化への関心をもち、授業内容に積極的に参加する ・自分の食生活を振り返り、学習とのつながりを見出そうとする (ワークシート・レポート) 【知識・技能】 ・日本の食文化の歴史的理解する ・和食の特徴・行事食・地域食文化を整理して説明できる ・日本の食マナーや食卓文化の基本を理解する 【思考・判断・表現】 ・日本の地域差や歴史的背景を踏まえて、食文化の特徴を比較・分析できる ・日本の食をめぐる現代課題について説明できる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本の食文化の価値を理解し、地域や伝統に関心をもつ ・自分の生活に日本の食文化を取り入れようとする姿勢が見られる (ワークシート・レポート)	○	○	○	28
	3 調理実習 【知識・技能】 ・各食品の調理性理解している。 ・材料に応じた調理操作理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切に調理法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。	【実習】 ・日本料理 2 回以上	【知識・技能】 ・各食品の調理性理解している。 ・材料に応じた調理操作理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切に調理法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理や実験に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	
	小テスト			○	○		
	4 世界の食文化 【知識・技能】 ・世界各地域の食文化を、宗教・気候・歴史・社会制度と関連づけて理解できる ・世界の食マナー・行事食の特徴を説明できる 【思考・判断・表現】 ・日本と世界の食文化を多角的に比較し、共通点・相違点を論理的に説明できる ・グローバル化による食文化の変容を分析し、自分の考えをまとめて表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・異文化の食に対して偏見なく理解しようとする態度が見られる ・世界の食文化に興味をもち、調べ学習に積極的に取り組む	①アジアの食文化 ・中国・韓国・東南アジア ②インド・中東の食文化 ・宗教との関係について ③ヨーロッパの食文化 ・地中海・北欧 ④アフリカの食文化 ・気候と食材について ⑤北米・中南米の食文化 ・移民と多文化 ⑥世界の食マナー比較 ⑦世界の行事食・祝祭と食 ⑧世界の食文化の変容 ・グローバル化と食文化 ⑨ファストフードと食の均質化 ⑩世界の食をめぐる現代課題	【知識・技能】 ・世界各地域の食文化を、宗教・気候・歴史・社会制度と関連づけて理解できる ・世界の食マナー・行事食の特徴を説明できる 【思考・判断・表現】 ・日本と世界の食文化を多角的に比較し、共通点・相違点を論理的に説明できる ・グローバル化による食文化の変容を分析し、自分の考えをまとめて表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・異文化の食に対して偏見なく理解しようとする態度が見られる ・世界の食文化に興味をもち、調べ学習に積極的に取り組むワークシート・レポート)	○	○	○	

2 学 期		・ 飢餓・貧困・食料問題について 【調べ学習】 ・ 世界各国の食について				30
	5 調理実習 【知識・技能】 ・ 各食品の調理性を理解している。 ・ 材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・ 安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・ 材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 他者と協働し、調理に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。	【実習】 ・ 西洋料理、中華料理 4回以上	【知識・技能】 ・ 各食品の調理性を理解している。 ・ 材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・ 安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・ 材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 ・ 実験の結果を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 他者と協働し、調理や実験に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。 (ワークシート・レポート)	○	○	○
	小テスト			○	○	1
3 学 期	6 食と社会・環境 【知識・技能】 ・ フードロス、地産地消、環境負荷など、食と社会・環境の関係を理解できる ・ 食の安全（食品表示・添加物・衛生）や健康（栄養）に関する基礎知識を説明できる 【思考・判断・表現】 ・ 社会課題と食の関係を分析し、持続可能な食のあり方を提案できる ・ データや資料を根拠に、自分の考えを論理的に表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 食と環境の問題に関心をもち、改善に向けた行動を考えようとする ・ 健康的で持続可能な食生活を実践しようとする姿勢が見られる	【調べ学習】 「フードロスの現状と対策」 「地産地消と地域活性化」 「食と環境」「持続可能な食」 「健康と食」 上記の中から各自がテーマを決めレポートを作成し、発表する。	【知識・技能】 ・ フードロス、地産地消、環境負荷など、食と社会・環境の関係を理解できる ・ 食の安全（食品表示・添加物・衛生）や健康（栄養）に関する基礎知識を説明できる 【思考・判断・表現】 ・ 社会課題と食の関係を分析し、持続可能な食のあり方を提案できる ・ データや資料を根拠に、自分の考えを論理的に表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 食と環境の問題に関心をもち、改善に向けた行動を考えようとする ・ 健康的で持続可能な食生活を実践しようとする姿勢が見られる (ワークシート・レポート・研究発表)	○	○	○
						10
						合計 70

教科： 家庭

科目： 調理実践

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 3 組～ 4 組

教科担当者：（3組：成田）（4組：成田）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（フードデザイン Food Changes LIFE 教育図書 ）

教科 家庭 の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を通し、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な知識・技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う

科目 調理実践 の目標： 食品を科学的にとらえ、調理に生かす技術を身につける。
おいしさの要素を理解し、日常生活においておいしい食事をつくる工夫ができるよう実践する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品の調理性、調理の基礎及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	健康と食生活 【知識・技能】 ・食の役割や青年期の食生活を理解している。 【思考・判断・表現】 ・食を取り巻く環境を考え情報を収集し、必要な内容を取捨選択できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・調べ学習を通して、食生活について興味関心をもち、日常生活に生かそうとしている。	①食事の意義と役割 ・5つの食 ②食を取り巻く現状その1 ・青年期の食生活 ③食を取り巻く現状その2 ・食生活の変化 ④現代の食生活の課題と栄養等の摂取状況 【調べ学習】 青年期の食生活について、5つのテーマから課題の一つを選び、内容を調べ発表する。	【知識・技能】 ・食の役割や青年期の食生活を理解している。 【思考・判断・表現】 ・食を取り巻く環境の情報を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食生活について興味関心をもち、調理へ生かそうとしている。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	28
	調理実習・調理実験 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 ・実験の結果を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。	【実習】 ・日本料理 3回以上 【実験】 ・調理実験2回以上	【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 ・実験の結果を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理や実験に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	
	小テスト			○	○		1
2 学 期	栄養素 【知識・技能】 ・栄養素の役割やはたらきを理解している。 【思考・判断・表現】 ・栄養素の消化吸収、栄養素の役割やはたらきを理解し、必要な内容を取捨選択することができる。 ・日常生活に実践できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・栄養素の役割やはたらきを理解し、日常生活に生かそうとしている。	⑤栄養素と消化吸収 ・からだが何からできているか ・消化吸収の仕組み ・栄養素の役割 ⑥各栄養素のはたらき ・炭水化物 ・脂質 ・たんぱく質 ・ビタミン ・無機質（ミネラル） 【調べ学習】 ・5つの栄養素の中から一つ選び、どんな食品に多く含まれているか、またその調理法を調べる。	栄養素 【知識・技能】 ・栄養素の役割やはたらきを理解している。 【思考・判断・表現】 ・栄養素の消化吸収、栄養素の役割やはたらきを理解し、必要な内容を取捨選択することができる。 ・日常生活に実践できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・栄養素の役割やはたらきを理解し、日常生活に生かそうとしている。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	30
	調理実習・調理実験 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うこ	【実習】 ・西洋料理、中華料理 4回以上 【実験】 ・調理実験2回以上	【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うこ				

期	とができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 ・実験の結果を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。	・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 ・実験の結果を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理や実験に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。 (ワークシート・レポート)	○	○	○		
			○	○	○		
	小テスト		○	○		1	
3 学 期	調理実習 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 ・授業で学習した内容を理解し、調理を計画することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。 ・栄養のバランスや食事の楽しさを考え、工夫する取り組みをしている。	【実習】 ・各班でテーマを決め、一食分の食事を計画し、調理する。 ・各班の食事について、意見交換する。	調理実習 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 ・授業で学習した内容を理解し、調理を計画することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して興味関心を持って前向きに取り組んでいる。 ・栄養のバランスや食事の楽しさを考え、工夫する取り組みをしている。 (発表・レポート)	○	○	○	6
				○	○	○	3
		確認テスト⑤		○	○		1
						合計	
						70	

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 工業 科目 課題研究

教科：工業 科目：課題研究 単位数：3 単位

対象学年組：3年1組 3年2組 3年3組 3年4組

教科担当者：（橋本、三浦、栗島、古川、安松、谷内、吉村、高島、関谷）

使用教科書：（ 自校作成 ）

教科 工業 の目標：

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(2) 工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

【知識及び技能】 食品工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食品工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 課題研究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
課題研究に関連する基礎的・基本的な知識を身につけ、食品サイエンスの意義や役割を理解している	課題研究を通して、得られた事象に問題を見出し、それらの現象や事象を論理的に考え、総合的に判断し、その成果を的確に表現出来る	課題研究を通して、諸問題に関心を持ち、その改善と向上をめざして積極的に取り組む意欲をもち、実践的な態度を身に付ける

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	研究主題の決定	研究主題の比較検討 研究主題の決定	出席状況、授業の取り組み状況・態度、ノート提出	○	○	○	9
	研究方法の決定	研究方法の比較検討 研究方法の決定	出席状況、授業の取り組み状況・態度、ノート提出	○	○	○	12
	研究準備	実験計画・文献調査 研究の準備	出席状況、授業の取り組み状況・態度、ノート提出	○	○	○	6
	研究	調査研究および実験の実施	出席状況、授業の取り組み状況・態度、ノート提出	○	○	○	15
2 学 期	研究結果の中間発表	調査研究および実験の実施 研究結果の中間報告	出席状況、授業の取り組み状況・態度、ノート提出 発表の様子、スライドの見やすさ・工夫	○	○	○	12
	研究	調査研究および実験の実施 研究レポートの作成	出席状況、授業の取り組み状況・態度、ノート提出	○	○	○	30
3 学 期	研究の整理 研究道具の片付け	研究レポートの作成 プレゼンテーションの準備	出席状況、授業の取り組み状況・態度、ノート提出	○	○	○	12
	研究結果の報告発表	研究結果の発表練習 研究発表の評価	発表の様子、質疑応答の対応、スライドの見やすさ・工夫	○	○	○	9
							合計 105

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

工業（食品化学） 科目 食品栄養学

教 科： 工業（食品化学） 科 目： 食品栄養学

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組 ～ 4 組

教科担当者：（1組：古川） （2組：岩井、富永） （3組：古川） （3,4組：中辻、近藤）

使用教科書等（ オールガイド食品成分表2026（実教出版） ）

教科 工業（食品化学） の目標： 食品に関する栄養学に興味を抱き、積極的に授業に取り組む。

【知 識 及 び 技 術】食品製造に必要な各栄養素の特性と加工法の原理を理解し栄養に関する生理的基礎知識を理解できる。

【思考力、判断力、表現力等】栄養素と化学や機能性食品に関する化学工業の知識と技術をよく理解し、食品の諸問題に対して自ら考え解決しようとする能力を持つことができる。

【学びに向かう力、人間性等】食品の品質と機能性の向上を図る能力と態度を意欲的に身に付けることができる。

科目 食品栄養学 の目標： 食品衛生の諸問題に常に関心を持ち続け、思考する能力と態度を身に付ける。

【知識及び技術】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造及び農業の各分野に必要な特性と加工法の原理を理解し、栄養に関する生理的基礎知識を理解することができる。	栄養素と化学や機能性食品に関して理解し、食品の諸問題に対して自ら考え解決しようとする能力を持つことができる。	栄養素を保ちつつ、食品の品質と機能性の向上を図る能力と態度を意欲的に身に付けることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	穀類 いも・でん粉類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【穀類・いも・でん粉類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性 ・食文化その他	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	砂糖・甘味類 豆類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【砂糖・甘味類・豆類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性 ・食文化その他	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	確認テスト			○	○		1
	種実類 野菜類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【種実類・野菜類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性 ・食文化その他	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	果実類 きのこ類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【果実類・きのこ類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性 ・食文化その他	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト			○	○		1
2 学 期	藻類 魚介類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【藻類・魚介類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性 ・食文化その他	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	肉類 卵類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【肉類・卵類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性 ・食文化その他	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	10
	確認テスト			○	○		1
	乳類 油脂類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【乳類・油脂類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性 ・食文化その他	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	確認テスト			○	○		1

3 学 期	菓子類 し好飲料類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【菓子類・し好飲料類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性 ・食文化その他	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8	
	調味料・香辛料類 調理済み流通食品類	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 【調味料・香辛料類・調理済み流通食品類について】 ・栄養上の特徴 ・選び方・保存方法 ・加工と加工品 ・調理性	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品栄養学に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、プリントやワード、スライドで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	3	
	確認テスト			○	○		1	
								合計
								70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 工業 科目 実習
 教 科： 工業 科 目： 実習 単位数： 4 単位
 対象学年組：第 3 学年 1 組～ 2 組
 教科担当者： （桑島） （橋本） （酒井） （高島） （吉村）
 使用教科書：（ 工業化学実習Ⅰ・Ⅱ：実教出版 ）

【知 識 及 び 技 能】食品サイエンス分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】食品サイエンスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、食品業界の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品サイエンスの技術について食品サイエンスのもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	食品サイエンスの技術に関する課題を発見し、食品サイエンスに携わる者として科学的な根拠に基づき食品工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	食品サイエンスの技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、食品サイエンスの発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 ク ラ ス 6 展 開 の 授 業 形 式 に よ り 1 年 間 を 通 じ て 、 全 テ ー マ を ロー テー シ ョ ン す る	食品分析実習（機器分析）	オリエンテーション(共通) 実習で使う機械操作や機器の取り扱いを理解する。 液体クロマトグラフィーの原理と操作法を学ぶ。 ガスクロマトグラフィーの原理と操作法を学ぶ。 吸光度法の原理と操作法を学ぶ。	実習態度・身なり服装がよい 報告書が正しく書けるか 指図を守って、実習を行えるか 率先して実習に取り組めるか	○	○	○	28
	食品製造実習	畜肉の大利煮缶詰の製造で缶詰について学ぶ。 コンビーフの製造で肉の扱いについて学ぶ。 カレーの製造でレトルト製品について学ぶ。 鯖の大利煮の缶詰の製造で魚の処理について学ぶ。 乳酸飲料の製造で瓶詰め飲料の製造と発酵乳について学ぶ。	実習態度・身なり服装がよい 報告書が正しく書けるか 指図を守って、実習を行えるか 率先して実習に取り組めるか	○	○	○	28
	微生物実習	大腸菌を使用して抗菌作用について学ぶ。 乳酸菌を使用して菌体数の計測について学ぶ。	実習態度・身なり服装がよい 報告書が正しく書けるか 指図を守って、実習を行えるか 率先して実習に取り組めるか	○	○	○	28
	食品製造実習	シフォンケーキ、スコーンの製造を通じて小麦粉の加工法について学ぶ。	実習態度・身なり服装がよい 報告書が正しく書けるか 指図を守って、実習を行えるか 率先して実習に取り組めるか	○	○	○	28
	食品分析実習（実験）	バイオリアクターを使用して、バイオエタノールの合成について学ぶ。 合成したバイオエタノールの蒸留技術を学ぶ。 果実の成分であるクエン酸をアルカリで滴定することで、定量分析を学ぶ。	実習態度・身なり服装がよい 報告書が正しく書けるか 指図を守って、実習を行えるか 率先して実習に取り組めるか	○	○	○	28 合計 140

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 工業 科目 食品工業

教 科： 工業 科 目： 食品工業 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 2 組
 教科担当者：（1組：三浦 （2組：鈴木） （組： ） （組： ） （組： ） （組： ）
 使用教科書：（工業化学2（実教出版））

教科 工業 の目標：工業化学の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む
 【知識及び技能】食品化学に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。
 【思考力、判断力、表現力等】食品化学や人間生活との関わりを理解し、化学的に考察できる。
 【学びに向かう力、人間性等】食品化学について意欲的に学ぶ態度を身に付ける。

科目 食品工業 の目標：食品と有機化合物の関係や食品を学ぶにあたって必要な無機化学・有機化学の基礎を学ぶ。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品化学に関する現象や事象について、基礎的・基本的な概念や、原理・法則を理解している。身近にある食品化学について化学的に探求し、食品化学の意義や役割を理解している。	食品化学と人間生活に関する事象に課題をみいだし、それらの現象や事象を論理的に考え、総合的に判断し、その成果を的確に表現できる。化学と生活とのかかわりを適切に考察する能力を身につけている。	食品化学の性質や変化、化学の基礎理論や化学工業に関する諸問題に関心をもち、その改善と向上をめざして積極的に取り組む意欲をもっている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	最終章 化学工業の歴史と未来	・地球上の限られた資源を有効に活用してきた化学工業の歴史及び役割の重要性について理解した上で、今後の化学工業のめざすべき姿を考えさせる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	第12章 有機化学 1. 有機化合物の特徴・分類と命名法	・炭化水素及びその異性体や誘導体について、有機化合物の基礎を系統的に理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	確認テスト①			○	○		1
	2. 脂肪族炭化水素	・炭化水素及びその異性体や誘導体について、有機化合物の基礎を系統的に理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	3. 芳香族炭化水素	・ベンゼンを中心に芳香族炭化水素及びその誘導体について体系的に理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第13章 石油・石炭の化学工業 1. 原油と石油製品	・原油の埋蔵・採取方法及び石油製品の概略から利用目的を知る。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	2. 石油の精製	・石油精製により、需要の多いガソリン成分を製造するための化学的処理の技術について理解させる。また、石油製品の品質向上のための脱硫についても理解させ	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	3. 石油化学工業	・石油化学工業の技術、石油化学製品とその誘導体について理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	4. 天然ガス・石炭の化学工業	・天然ガス、石炭資源の有効利用、環境対策や新技術について理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト③			○	○		1
	第14章 工業材料と機能性材料 1. 高分子材料	・天然・合成高分子（樹脂、繊維、ゴム）の基本や成形法について理解させ、機能性高分子や複合材料についても理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	2. セラミックス	・ガラス・セメントの製法・特徴・用途などを理解させる。 ・ファインセラミックスの製造方法について理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	3. 金属材料	・鉄・銅・アルミニウムなどの従来の製錬技術とケイ素やチタンの製造方法について理解させる。ま	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度				

		た合金や新素材の特徴・製造法を理解させる。	※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト④			○	○		1
3 学 期	第16章 生活と化学工業 1. 界面活性剤	・界面活性剤の製造法や性質と構造、用途やその応用について理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	2. 色素材料と塗料	・染料と顔料について理解させる。併せて色や塗料が工業製品の製品価値に与える影響を理解させる。					
	3. 紙と印刷	・紙の製造とパルプの利用法、製紙プロセスについて理解させる。また、情報を記録・保持する手段としての印刷の役割と原理を理解させる。	・小テスト ・ノート提出 ・授業態度 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト⑤			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用）教科

工業

科目 食品製造技術Ⅱ

教科：工業

科目：食品製造技術Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～2組

教科担当者：（1,2組：山崎）（組：）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（食品製造：実教出版（株））

教科 工業

の目標：食品工業の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む

【知識及び技能】食品製造に必要な基礎的な知識と心構えを身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】食品製造と人間生活との関わりを理解し、豊かな食生活の提供について考察できる

【学びに向かう力、人間性等】食品製造について意欲的に学ぶ態度を身に付ける

科目 食品製造技術Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識を身に付け、生活に役立てることができる。	食品製造に関する知識から課題を発見し、食品工業に携わる者として合理的かつ創造的に解決できる力を自ら養うことができる。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるように自ら学び、食品工業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第6章 農産物の加工 1 穀類の加工 ①穀類の種類と特徴 ②米 ③小麦 ④パン 【知識及び技能】 ○米を用いた加工食品を製造する際に重要な米の種類とその特性について理解する ○小麦の成分で特にグルテンについての特徴について理解する 【思考・判断・表現等】 ○米を精米加工する利点について 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う	○穀類の加工特性について学ぶ ○米の種類とその成分構成について学ぶ ○米の構造と精米工程について学ぶ ○小麦粉の加工特性についてグルテンを重点的に学ぶ	【知識・技能】 ○穀類の種類とグルテンの形成、特徴について理解している 【思考・判断・表現】 ○米を精米加工する利点について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自ら米の加工食品を調べその特徴について考えることができる。	○	○	○	8
	確認テスト①			○	○		1
	第6章 農産物の加工 1 穀類の加工 ⑤菓子類 ⑥麺類 2 豆類の加工 ①豆類の特徴とその加工品 ②大豆の加工 【知識及び技能】 ○豆類の種類とその成分が大きく分けてタンパク質、脂質が豊富な種類と炭水化物が豊富なものに分けられることを理解する 【思考・判断・表現等】 ○グルテンの形成について機械加工による製造と手作りによる製造での違いについて○大豆の製造方法とその加工特性について理解し、その利点について説明できるようになる 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う	○グルテンの機械加工による特性、手作りによる加工特性についてその違いについて理解させる ○豆類の種類とその成分構成について学ぶ ○大豆の加工食品について製造法と加工原理を学ぶ ○豆腐についてその成分特性と凝固の原理について学ぶ	【知識・技能】 ○豆類の種類と成分の違い、特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 ○穀類と水を混ぜ捏ねた際の機械加工と手作りによる練りについて食感の違いがなぜ起こるかを理解している。 ○大豆の加工品の特性を理解し、その利点について説明できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自ら菓子、豆類の加工食品を調べその特徴について考えることができる。	○	○	○	8
	第6章 農産物の加工 3 いも類の加工 ①いも類の特徴とその加工品 ②こんにゃく 【知識及び技能】 ○いも類の種類と水分が多く含まれるため生の状態で貯蔵性が悪いことを理解する ○コンニャクイモの主成分グルコマンナンについて理解し、これが凝固し、こんにゃくの製造に役立っていることを理解する 【思考・判断・表現等】 ○いも類の加工品について理解し、どのように貯蔵性を改善しているかを説明できるようになる 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う	○いも類の成分構成について学ぶ ○いも類の加工食品について製造法加工特性について学ぶ ○こんにゃくいも	【知識・技能】 ○いも類の種類と成分、特徴について理解している。 ○こんにゃくの凝固原理について理解している。 【思考・判断・表現】 ○いも類の加工品の特性を理解し、その利点について説明できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自らいも類の加工食品を調べその特徴について考えることができる。	○	○	○	8
	確認テスト②			○	○		1
	第6章 農産物の加工 4 野菜類の加工 ①野菜類の特徴とその加工品 ②漬け物 ③トマトの加工 【知識及び技能】 ○野菜類の分類とその名称を理解する。 （野菜類の成分構成を理解し、その学	○野菜類の分類について学ぶ ○野菜の種類とその成分構成について学ぶ ○漬物の種類と発酵について学ぶ ○トマトの加工品とその製造法について学ぶ	【知識・技能】 ○野菜類の種類と成分、特徴について理解している。 ○色素についてその特徴と利用方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ○アントシアニンの利用についてそのpH特性を説明できている。				

2 学 期	○野菜類の収力増成を理解し、その栄養価が高いことで我々の食生活を支えていることを理解する ○追熟による生理特性や加工による特性を理解する 【思考・判断・表現等】 ○野菜類に含まれる色素について理解し、アントシアニンのpHによる変色がどのように使われるかを説明できるようになる 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う		【主体的に学習に取り組む態度】	○自ら野菜類の加工食品を調べその特徴について考えることができる。	○	○	○	8
	第6章 農産物の加工 5 果実類の加工 ①果実の特徴 【知識及び技能】 ○果実類の分類とその名称を理解する。 ○果実類の成分構成を理解する 【思考・判断・表現等】 ○果実類に含まれる糖質について理解し、温度変化による甘さの変化について考え説明できるようになる 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う	○果実類の分類について学ぶ ○果実類の種類とその成分構成について学ぶ	【知識・技能】	○果実類の種類と成分、特徴について理解している。	○	○	○	7
	確認テスト③				○	○		1
	第6章 農産物の加工 5 果実類の加工 ②ジャム類 ③果実飲料 ④シラップ漬け ⑤乾燥果実 【知識及び技能】 ○各加工品の製造方法、加工特性について理解する 【思考・判断・表現等】 ○各製造品の加工する利点について説明できるようになる 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う	○ジャム類の加工特性とその製造について学ぶ ○果実飲料の加工特性とその製造法について学ぶ ○シラップ漬けの加工特性とその製造法について学ぶ ○乾燥果実の加工特性とその製造法について学ぶ	【知識・技能】	○果実類の加工特性について理解している。	○	○	○	7
	第7章 畜産物の加工 1 肉類の加工 ①肉の成分と加工特性 ②豚肉の加工 【知識及び技能】 ○肉類の種類とその成分構成について理解する。 ○豚肉に加工される種類とその特徴について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○加工部位の特性から製造するものに適した肉を選択できるようになる 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う	○肉類の種類とその成分、加工特性について学ぶ ○豚肉に加工される種と豚肉になるまでの工程について学ぶ ○豚肉の部位とその加工特性について学び、各加工品について学ぶ	【知識・技能】	○肉類の成分、特徴について理解している。	○	○	○	7
	確認テスト④				○	○		1
3 学 期	第7章 畜産物の加工 1 肉類の加工 ③鶏肉の加工 【知識及び技能】 ○鳥肉に加工される種類とその特徴について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○加工部位の特性から製造するものに適した肉を選択できるようになる 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う	○鶏肉に加工される種と鶏肉になるまでの工程について学ぶ ○鶏肉の部位とその加工特性について学び、各加工品について学ぶ	【知識・技能】	○鳥肉に加工される種類とその流通について理解している。	○	○	○	7
	第7章 畜産物の加工 2 牛乳の加工 ①牛乳の成分と加工特性 ②牛乳 ③発酵乳・乳酸菌飲料 ④チーズ ⑤アイスクリーム ⑥クリーム・バター 【知識及び技能】 ○牛乳の成分構成について理解する。 ○乳牛の種類とその名称について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○牛乳を用いた加工品の特性についてその利点について説明できるようになる。	○牛乳の成分構成と種類、その加工特性について学ぶ ○牛乳を用いた加工品についてその製造法と加工特性について学ぶ	【知識・技能】	○牛乳の成分、特徴について理解している。	○	○	○	7

	【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に具体的な加工品について調べ、その特徴について話し合う					
	確認テスト⑤			○	○	1
						合計
						70

年間授業計画

中野工科 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 工業 科目 実習Ⅱ

教 科： 工業 科 目： 実習Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 3,4組【サイエンスコース】

教科担当者： 3,4組 高島 谷内 関谷 内田 石川 三浦

使用教科書： 自校オリジナルテキスト デザイン実践（実教出版）

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことや、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

教科 工業 の目標： (2) 工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ化学的に考察し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

【知識及び技能】食品工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】食品工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ化学的に考察し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 実習Ⅱ の目標： 食品工業に関する技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品工業のもつ社会的な意義や、「役割と人」との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	食品工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を養う。	食品工業に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	オリエンテーション 実習の目的を理解し、各分野に共通する知識や技術に興味・関心を持つとともに、実験・実習に主体的に取り組む態度を身につけさせる。	実習の目的 実習班およびスケジュールの確認 実習におけるルール ファイルの作成 報告書（レポート）について	【知識・技能】 実習の目的をよく理解させ、ものづくりが工業技術の中で果たしている役割についての知識と技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、行動（表現）できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実習の目的を理解し、各分野に共通する知識や技術に興味・関心を持つとともに、実験・実習に主体的に取り組む態度を身につけている。	○	○	○	12
	食品製造実習（2系統） 成分分析実習 有機合成実習 デザイン実習	【食品製造】 ・牛肉の大和煮 ・カレー ・鯖の缶詰 ・シフォンケーキ ・ペーグル 【成分分析】 ・アルコールの定性 ・Caの定量 ・電子顕微鏡観察 【有機合成】 ・サッカリンの合成 ・合成石鹼の製造、触媒の働き 【デザイン】 ・Adobe Illustrator ・デッサン	【知識・技能】 作業の基本操作についての正しい知識を持ち、実習内法をよく理解している。 【思考・判断・表現】 作業の基本操作について、適切に思考・判断し、その方法についての確に表現できる技量を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 作業の基本操作について興味・関心を持ち、実習に意欲的に取り組む態度を身につけている。	○	○	○	36
2 学期	※製造・分析系列、デザイン系列で分け、各分野を班でローテーションして実施	【有機構成】 ・サッカリンの合成 ・合成石鹼の製造、触媒の働き 【デザイン】 ・Adobe Illustrator ・デッサン	※作品・主体的な授業態度・レポートを複合的に各観点に照らし合わせて評価する	○	○	○	40
	食品製造実習（2系統） 成分分析実習 有機合成実習 デザイン実習	【食品製造】 ・カップゼリー ・ソーセージ ・ミカンのシラップ漬け ・プリン 【成分分析】 ・アミノ酸、カルボニル酸の定量 ・糖の定量 ・安息香酸の合成 【デザイン】 ・Adobe Illustrator ・グラフィックデザイン（製造品用ラベル&ポスター） ・平面構成	【知識・技能】 道具や機器の使用方法を理解し、正確に作業を行う技能を身につけている 【思考・判断・表現】 作業手順を論理的に考え、的確な判断と表現で課題を解決する力を身につけている 【主体的に学習に取り組む態度】 実習に積極的に取り組み、安全に配慮しながら主体的に学ぶ姿勢を身につけている	○	○	○	24
3 学期	※製造・分析系列、デザイン系列で分け、各分野を班でローテーションして実施		※作品・主体的な授業態度・レポートを複合的に各観点に照らし合わせて評価する	○	○	○	28
							合計 140

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

工業（食品化学） 科目 食品衛生学

教科：工業（食品化学） 科目：食品衛生学

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 3組～4組

教科担当者：（3組：古川）（4組：三浦）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（調理師統本（第1出版））

教科 工業（食品化学）の目標：食品衛生に興味を抱き、積極的に授業に取り組む。

【知識及び技術】微生物と食品との関係を理解し衛生的に食品の調理ができる。

【思考力、判断力、表現力等】食品衛生学をよく理解し、食品の諸問題に対して自ら考え解決しようとする能力を持つ。

【学びに向かう力、人間性等】食品衛生や食品調理に関して意欲的に学び続ける姿勢を身につける。

科目 食品衛生学の目標：食品衛生の諸問題に常に関心を持ち続け、思考する能力と態度を身に付ける。

【知識及び技術】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造に携わるものとして、常に食品衛生に関心を抱き、食品衛生法規に沿って調理作業が出来る能力と態度を養う。	食品と微生物の関係をよく理解し、食品の変質・腐敗・食品中毒について説明が出来る。社会で起きている食品公害について自ら考え解決する姿勢を持つことが出来る。	食品衛生の現状や食品業界を取り巻いている食品衛生の諸問題に常に関心を持ち、その改善と向上を目指す態度と学び続ける姿勢を持っている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	衛生法規	法律とは何かを理解させる 法律に基づく資格の紹介 調理師・栄養士・衛生責任者・衛生管理者の資格の意義や取得方法などの紹介	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	公衆衛生学	公衆衛生とは何か学ぶ 公衆衛生行政について学ぶ、保健所、消費者庁、国際機関の活動など健康とは何か理解する。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	確認テスト			○	○		1
	公衆衛生学	廃棄物処理について 環境汚染による危害について学ぶ（四大公害病について） 感染症について学ぶ各種感染症の知識及び予防法を学ぶ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	食品の腐敗と食中毒	食品の保存方法や変質防止について学ぶ 食中毒の種類	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト			○	○		1
2 学 期	食中毒と予防・感染型と毒素型	細菌性食中毒の症状と予防法を学ぶ 感染毒素型（サルモネラ・病原性大腸菌・腸炎ビブリオ・ウェルシュ菌） 毒素型（ブドウ球菌・ボツリヌス菌・セレウス）	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	食中毒と予防・感染型と毒素型	毒素型（ブドウ球菌・ボツリヌス菌・セレウス） 経口感染症（赤痢・コレラ・チフス） ウィルス性食中毒（ノロ・A型肝炎・ポリオ）	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	10
	確認テスト			○	○		1
	食品中の化学物質による食中毒	化学物質による食中毒を理解する アレルギー様食中毒 農薬・有害器具・容器による自然毒による食中毒	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	確認テスト			○	○		1
	食品添加物	飲食品添加物と使用基準を理解する	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小				

3 学 期	食による危害の衛生管理		テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8	
	食品衛生のまとめ	無機質の種類、含む食品、人体への働き、食品での利用方法を理解する 病人食や妊婦職などライフステージと栄養を学ぶ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 食品衛生に関するテーマを決めて、調べ学習し、プリントやワード、スライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	3	
	確認テスト			○	○		1	
								合計
								70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 工業 科目 環境学

教 科： 工業 科 目： 環境学 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 3 組～ 4 組

教科担当者：（ 3, 4組：鈴木 ）

使用教科書： 地球環境化学（ 実教出版 ）

教科 工業 の目標： 持続可能な社会の実現にむけて、技術者として地球環境にどのように向かうか考えさせる。

【知 識 及 び 技 能】地球環境化学に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地球環境化学や人間生活との関わりを理解し、化学的に思考、判断、考察する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地球環境問題について化学的に意欲をもって学ぶ態度を身に付ける。

科目 環境学 の目標：	
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
地球環境に関する現象や事象について、基礎的な概念や、原理・法則を理解している。身近にある環境問題について化学的に探求し、環境の意義や役割を理解している。	地球環境と人間生活に関する事象に課題を見つけ、それらの現象や事象を論理的に考え、総合的に判断し、その成果を的確に表現できる。地球環境と人間生活とのかかわりを適切に考察しする能力を身につけている。
【学びに向かう力、人間性等】	地球環境の現状や、地球環境に関する諸問題に関心を持ち、その改善と向上をめざして積極的に取り組む意欲をもっている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	地球と環境と人間について、概要を理解する。	地球と人類 地球環境問題 大気環境	・ワークシート（紙媒体orデジタルデータ） ・リフレクションシート ・出席状況や提出物の内容・リフレクションシート取り組み具合を参考に総合的に評価する。	○	○	○	5
	地球環境について、現状を把握し概要を理解する。	水の環境 土壌の環境 環境と生態系	・ワークシート（紙媒体orデジタルデータ） ・リフレクションシート ・出席状況や提出物の内容・リフレクションシート取り組み具合を参考に総合的に評価する。	○	○	○	7
	確認テスト①			○	○		1
	人間活動と環境について、概要を理解する。	人間活動を支える物質資源 人間活動を支えるエネルギー 化学物質の変化	・ワークシート（紙媒体orデジタルデータ） ・リフレクションシート ・出席状況や提出物の内容・リフレクションシート取り組み具合を参考に総合的に評価する。	○	○	○	10
	環境調査について、現状を把握し概要を理解する。	調査の目的と方法 大気の測定 水質の測定	・ワークシート（紙媒体orデジタルデータ） ・リフレクションシート ・出席状況や提出物の内容・リフレクションシート取り組み具合を参考に総合的に評価する。	○	○	○	7
	確認テスト②			○	○		1
2 学 期	環境の保全技術について、問題提示し概要を理解する。	排ガスの処理 排水の処理 精査技術と環境保全	・ワークシート（紙媒体orデジタルデータ） ・リフレクションシート ・出席状況や提出物の内容・リフレクションシート取り組み具合を参考に総合的に評価する。	○	○	○	8
	確認テスト③			○	○		1
	廃棄物と環境について、現在の問題を考え理解する。	廃棄物の現状 廃棄物の処理と有効利用	・ワークシート（紙媒体orデジタルデータ） ・リフレクションシート ・出席状況や提出物の内容・リフレクションシート取り組み具合を参考に総合的に評価する。	○	○	○	10
	確認テスト④			○	○		1
3 学 期	持続可能な社会構築のためのしくみについて、概要を理解する。	環境問題への取り組み	・ワークシート（紙媒体orデジタルデータ） ・リフレクションシート ・出席状況や提出物の内容・リフレクションシート取り組み具合を参考に総合的に評価する。	○	○	○	9
	持続可能な社会構築のためのしくみについて学び、概要を理解する。	環境の管理と評価	・ワークシート（紙媒体orデジタルデータ） ・リフレクションシート ・出席状況や提出物の内容・リフレクションシート取り組み具合を参考に総合的に評価する。	○	○	○	10

		る。				
確認テスト⑤			○	○		1
						70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

工業（デザイン） 科目 パッケージデザイン

教科：工業（デザイン）

科目：パッケージデザイン

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年

3・4組 食品デザイン系列生徒

教科担当者：（関谷 内田）

使用教科書：（デザイン実践）

教科 工業（デザイン）

の目標：

【知識及び技能】様々な材料や表現手段から、デザイン力を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】学んだことをふまえてイメージし、カタチにすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】作品の完成度を高めるため、最後まで課題に取り組む。

科目 パッケージデザイン

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①本時の学習内容をプリントに記入することができる。 ②道具を正しく使用することができる。 ③作品を完成させる。	①各素材や表現技法を理解することができる。 ②基本条件をふまえたデザインを描くことができる。 ③作品を丁寧に仕上げるることができる。	①説明を集中して聞くことができる。 ②教員と対話し、より良いデザインを模索しようとしている。 ③制作に集中して取り組んでいる。 ④片付け掃除に取り組んでいる。 ⑤反省・感想をプリントに記入することができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	単元：合掌袋のデザイン （アイスの袋のグラフィック デザインと新しい味商品の 提案）	【Adobe Illustrator】 ・基本動作の学習 ・アイスのテイストにつ いての調査 ・新しいテイストを考え る ・デザインのまとめる ・合掌袋のデザインをイ ラストレーターでおこす	出席時数、提出物、小テスト、授 業態度、プレゼンテーション等で 総合的に判断する。 【知識・技能】 ・PCや周辺機器の正しい使用方 法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・MacPC、周辺機器、Adobe Illustratorの特徴を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作 し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良いデザ インを模索する態度を養う。	○	○	○	25
2 学期	単元：昇華転写によるテキ スタイルの制作	【テキスタイルデザイ ン】 ・日本の伝統工芸品や和 柄について ・海外の模様について ・昇華転写について ・アイデアスケッチ ・配色計画 ・着彩 ・昇華転写による出力 ・仕上げ	出席時数、提出物、小テスト、授 業態度、プレゼンテーション等で 総合的に判断する。 【知識・技能】 ・日本の伝統工芸品やそれに用い られる和柄の種類やそれらが持つ 意味や由来を知る。 【思考・判断・表現】 ・与えられた条件を踏まえて、図 柄をデザインすることができる。 ・配色計画に基づきながら、条件 に合った作品を制作し、丁寧に仕 上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に 仕上げるために模索する態度を養 う。	○	○	○	35
3 学期	単元：1年間のまとめ	【ポートフォリオ制作】 ・プレゼンボードもしくは プレゼンテーションの 制作 ・一人一台端末を活用 （情報収集）	出席時数、提出物、小テスト、授 業態度、プレゼンテーション等で 総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う 方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、紙への表し方を理 解する。 ・基本条件に合った作品を制作 し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に 仕上げるために模索する態度を養	○	○	○	10

		5。					
						合計	
						70	

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

工業 科目 生活化学

教科：工業

科目：生活化学

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 34 組

教科担当者：（34組：石川）（組：）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（工業化学2（実教出版））

教科 工業

の目標：工業化学の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む

【知識及び技能】有機化合物の性質や取り扱いに関する基礎的な知識と技術を身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】有機化合物の性質や人間生活との関わりを理解し、化学的に考察できる

【学びに向かう力、人間性等】有機化合物の性質と取り扱いについて意欲的に学ぶ態度を身に付ける

科目 生活化学

の目標：有機化合物の性質と取り扱い、化学製品について意欲的に学ぶ

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
有機化学に関する現象や事象について、基礎的・基本的な概念や、原理・法則を理解している。身近にある工業製品の材料について化学的に探求し、工業や化学の意義や役割を理解している。	物質と人間生活に関する事象に課題をみだし、それらの現象や事象を論理的に考え、総合的に判断し、その成果を的確に表現できる。化学と生活とのかかわりを適切に考察し、する能力を身につけている。	有機化合物の性質や変化、化学の基礎理論や化学工業に関する諸問題に関心をもち、その改善と向上をめざして積極的に取り組む意欲をもっている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・原油の採取、組成や原油由来の石油製品について学ぶ。 ・炭化水素の基礎について学ぶ。	・原油と石油製品 ・分子式と構造式	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	4
	・炭化水素の構造と分類について学ぶ。	・アルカン ・アルケン ・アルキン ・異性体	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト			○	○		1
	・炭化水素の反応について学ぶ。	・燃焼反応 ・付加反応 ・置換反応	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	4
	・炭化水素の誘導体について学ぶ。	・特性基と誘導体 ・アルコール ・エーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル ・アミンとアミノ酸	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	確認テスト			○	○		1
2 学 期	・危険物の共通する性質と危険性について学ぶ。 ・共通する貯蔵・取り扱いについて学ぶ。 ・共通する消火方法について学ぶ。	・危険物の性質及び貯蔵・取り扱い ・消火方法	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	・危険物の指定数量について学ぶ。 ・定期点検、製造所等の区分と設置基準について学ぶ。	・危険物と指定数量、定期点検	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	確認テスト			○	○		1
	・移送・運搬の基準について学ぶ。 ・消火設備・標識について学ぶ。	・運搬の基準、消火設備	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	・環式炭化水素について学ぶ。	・芳香族炭化水素 ・フェノール類	・小テスト ・観察				

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

工業（デザイン） 科目 映像デザイン

教科：工業（デザイン）

科目：映像デザイン

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年

3・4組 食品デザイン系列生徒

教科担当者：（松尾・富永

）

使用教科書：（デザイン実践

）

教科 工業（デザイン）

の目標：

【知識及び技能】様々な材料や表現手段から、デザイン力を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】学んだことを踏まえてイメージし、カタチにすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】作品の完成度を高めるため、最後まで課題に取り組む。

科目 映像デザイン

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①映像制作に必要な基礎的な知識を理解している。 ②撮影や編集に必要な機材・ソフトを適切に扱うことができる。	①誰に何を伝えるかを考え、目的に応じた映像表現を工夫している。 ②構成や編集の意図を説明することができる。 ③映像を通して、自分の考えや学校の魅力を表現している。	①制作活動に主体的に取り組み、試行錯誤しながら改善している。 ②他者の意見を取り入れ、協働しながら制作を進めている。 ③発表や振り返りを通して、自身の学びを深めようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	単元：映像デザイン	・映像企画とコンセプト設計 ・CM制作の流れ ・企画・演出の考え方 ・映像撮影実践 ・動画制作 ・編集ソフト基本操作 ・発表	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・映像表現に関する基礎的な知識を理解している。 ・Premiere Pro等を活用し、素材の読み込み、編集、テロップ、書き出しなどの基本操作ができる。 【思考・判断・表現】 ・誰に何を伝えるかを考え、目的に応じた映像表現を工夫している。 ・テロップ・音・編集効果などを活用し、自分の意図を相手に伝わる形で表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・制作活動に主体的に取り組み、試行錯誤しながら作品を改善しようとしている。 ・他者の意見を取り入れながら、より良い表現を目指している。 ・発表や鑑賞を通して、自分や他者の作品の良さを認め、学びを深めようとしている。	○	○	○	35
2 学期	単元：写真デザイン	・写真で見る世界 ・構図と視点のデザイン ・テーマ撮影実習 ・レイアウトデザイン実践 ・Illustratorによるポートフォリオ制作 ・発表	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・写真表現に関する基礎的な知識を理解している。 ・構図・光・色・視点などを意識して撮影することができる。 ・Illustratorを活用し、写真の配置や文字組みなど、ポートフォリオ制作の基本操作ができる。 【思考・判断・表現】 ・テーマや目的に応じて写真を選定し、相手に伝わる構成を工夫している。 ・写真の見せ方やレイアウトを考え、自分の意図を表現している。 ・作品全体の統一感や視覚的な印象を考えながら、ポートフォリオを構成している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・撮影や制作活動に主体的に取り組み、表現方法を工夫しようとしている。	○	○	○	35
3 学期							

		している。 ・他者の作品や意見を参考にしながら、自分の作品を改善している。				
						合計
						70

年間授業計画

高等学校 令和 8 年度（3 学年用） 教科： 工業 科目： 食品製造学B

教 科： 工業 科 目： 食品製造学B 単位数： 2 単位
対象学年組：第 3 学年 3 組～ 4 組
教科担当者：（3組：古川） （4組：古川） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）
使用教科書：（ 食品製造 ：実教出版(株) ）
教科 工業 の目標： 食品工業の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む

【知 識 及 び 技 能】食品製造に必要な知識と技術、更に材料に関連する必要な知識と技術を習得させる。

【思考力、判断力、表現力等】食品の特性と加工の原理を考え、表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】食品製造について意欲的に品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付ける。

科目 食品製造学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、材料に関連する知識を身につけ、生活に役立てることができる。	食品の特性と加工の原理から課題を発見し、合理的かつ創造的に解決できる力を養うことができる。	食品製造について意欲的に生産性や品質の向上が経営発展へつながるように自ら学び、主体的に社会貢献に取り組む態度を養うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第 6 章 農産物の加工 1 穀類類の加工	○指導事項 ・一人 1 台端末の活用 ○指導内容 ・穀類の種類とその特徴 ・穀類の加工原理 ・穀類を利用した加工食品	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	4
	第 6 章 農産物の加工 2 豆類の加工	○指導事項 ・一人 1 台端末の活用 ○指導内容 ・豆類の種類とその利用 ・大豆の特徴と加工のしくみ ・豆腐の製造法とその加工品	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	確認テスト			○	○		1
	第 6 章 農産物の加工 3 いも類の加工 4 野菜類の加工	○指導事項 ・一人 1 台端末の活用 ○指導内容 ・いも類の種類と加工特性 ・こんにゃくの製造方法と原理 ・野菜類の特徴 ・野菜類の加工原理 ・野菜類を利用した加工食品	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	第 6 章 農産物の加工 5 果実類の加工	○指導事項 ・一人 1 台端末の活用 ○指導内容 ・果実の特徴 ・果実の加工原理 ・果実を利用した加工食品	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト			○	○		1
2 学 期	第 7 章 畜産物の加工 1 肉類の加工 2 牛乳の加工	○指導事項 ・一人 1 台端末の活用 ○指導内容 ・肉の種類と処理方法 ・肉の加工特性と関係性 ・肉製品の製造に必要な技術 ・牛乳の成分の特徴 ・乳製品の特性と加工原理	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	第 7 章 畜産物の加工 3 鶏卵の加工	○指導事項 ・一人 1 台端末の活用 ○指導内容 ・鶏卵の構造と加工特性 ・鶏卵の加工品の種類 ・マヨネーズの製造原理	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト			○	○		1
	第 8 章 発酵食品の製造	○指導事項	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小				

3 学 期	1 発酵食品の特徴と種類 2 みそ・しょうゆの製造	・一人1台端末の活用 ○指導内容 ・発酵食品の特徴 ・微生物の種類とその働き ・みそ、しょうゆの特徴 ・麹の性質と働き ・みそ、しょうゆの製造法	テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	5
	第8章 発酵食品の製造 3 酒類の製造	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 ・酒類の特徴 ・アルコール発酵の原理 ・酒類の製造法	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	5
	確認テスト			○	○		1
	第9章 食品製造の実践と企業経営 1 食品製造における機械と装置の利用 2 品質管理	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 ・熱源、冷却、混合、かくはんのしくみ ・情報通信や人工知能による次世代食品工場 ・品質管理 ・品質管理に必要な教育、施設、設備	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	第9章 食品製造の実践と企業経営 3 作業体系 4 食品製造の実践	○指導事項 ・一人1台端末の活用 ○指導内容 ・安全で高品質な食品 ・国際的な動向 ・食品企業の経営 ・食品適正価格 ・品質保持大量生産	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関連するテーマを決めて、調べ学習し、ワードやスライド及び発表で評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	確認テスト			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和 8 年度（3 学年用） 教科 工業 科目 技術者の基礎

单位数： 2 单位

使用教科書：（ 化学工学（実教出版））

の目標： 科学技術や工業化学に関する基礎的な知識を習得させ、実際に活用する能力を育てる。

【知 識 及 び 技 能】工業化学に関する基礎的・基本的な事項についての知識と技術を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】工業化学が人間生活に関する現象や事象を論理的に考え、判断して表現できること。

【学びに向かう力、人間性等】工業化学に関する諸問題の改善と向上をめざし、積極的に取り組む意欲と実践的な態度を身につけること。

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	化学工場と化学工学	1. 食品工場や化学工場で作られているもの 2. 化学工業の種類と化学工場 3. 化学工場の特徴 4. 化学工場と化学工学	【知識・技能】 プリント等提出物の記載内容により、化学工場の特徴や物質収支に関する基本的な事項を理解したかを判断する。 【思考・判断・表現】 授業内での質疑や発表内容、プリント記載欄での質問などを評価する。 【学びに向かう力・取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。	○	○	○	6
	物質収支	1. 単位と有効数字 2. 物質の流れと物質収支 3. 各プロセスの物質収支 4. 物質収支に関する演習		○	○	○	6
	確認テスト①			○	○		1
	液体と気体の流れ	1. 液体の取扱い 2. 気体の取扱い 3. 管内の液体・気体の流れ 4. 圧力や流量の測定方法		○	○	○	6
	熱の取扱い	1. 熱の基礎知識 2. 熱の移動（伝熱現象の取扱い） 3. 熱交換機 4. 伝熱の計算	【知識・技能】 プリント等提出物の記載内容により、液体や気体の流れ、伝熱現象に関する基本的な事項を理解したかを判断する。 【思考・判断・表現】 授業内での質疑や発表内容、プリント記載欄での質問などを評価する。 【学びに向かう力・取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。	○	○	○	4
	熱の出入をともなう操作	1. 蒸発による物質・熱収支 2. 空気の調湿 3. 水の冷却 4. 乾燥器の構造 5. ボイラーの構成と種類		○	○	○	6
	確認テスト②			○	○		1
2 学 期	物質の分離と精製	1. 蒸留操作 2. 吸収操作 3. 抽出操作 4. その他の分離・精製法		○	○	○	6
	固体の取扱い	1. 固体と粉体 2. 粉砕と混合 3. 粉体の分離	【知識・技能】 プリント等提出物の記載内容により、化学工学の基本となる物質の分離や精製、粉体、反応装置や計測制御に関する基本的な事項を理解したかを判断する。 【思考・判断・表現】 授業内での質疑や発表内容、プリント記載欄での質問などを評価する。	○	○		6
	確認テスト③			○	○		1
	反応装置	1. 反応装置の種類と操作 2. 触媒反応装置	【学びに向かう力・取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。	○	○	○	6
	計測と制御	1. 化学プラントの運転管理 2. 変量の計測と伝達 3. 調整系と操作部 4. プロセス制御		○	○	○	6

	確認テスト④			○	○		1
3 学 期	化学プラントの運転管理	1. 生産計画と工程管理 2. 品質管理	【知識・技能】 調べ学習やその成果報告等により、化学プラントの運転管理、安全管理に関する基本的な行動原則等を理解したかを判断する。 【思考・判断・表現】 授業内での質疑や発表内容、プリント記載欄での質問などを評価する。 【学びに向かう力・取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。	○	○	○	2
	化学プラントの安全管理	1. 労働安全 2. 災害の未然防止 3. 化学工場での安全対策					3
	知的財産の管理	1. 知的財産とは何か 2. 技術開発と特許 3. 模倣・侵害とコンプライアンス 4. 知財と価値創造					4
	統計を用いた品質管理	1. 品質管理の考え方とばらつき 2. QC7つ道具とは 3. データを使った改善（PDCA）		○	○		4
	確認テスト⑤			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 工業（デザイン） 科目 クラフトデザイン

教科：工業（デザイン） 科目：クラフトデザイン 単位数：2 単位
対象学年組：第3学年 3・4組 サイエンスコース生徒 選択者
教科担当者：（海老澤・佐々木）
使用教科書：（デザイン実践）

教科 工業（デザイン） の目標：
【知識及び技能】様々な材料や表現手段から、デザイン力を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】学んだことを踏まえてイメージし、カタチにすることができる。
【学びに向かう力、人間性等】作品の完成度を高めるため、最後まで課題に取り組む。

科目 クラフトデザイン の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①ガラスや金属など素材の特徴を理解している。 ②道具や機材を安全に扱い、基本的な加工技術を身に付けている。 ③素材に応じた加工方法や制作手順を理解している。	①「食」をテーマに、使う人を想像しながら作品を企画している。 ②素材の特徴を活かし、機能性とデザイン性を工夫している。 ③制作意図や工夫した点を、自分の言葉で説明している。	①制作活動に主体的に取り組み、試行錯誤しながら改善している。 ②他者の意見を取り入れ、より良い作品を目指している。 ③発表や振り返りを通して、自身の学びを深めようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	単元：食に関わるガラスデザイン	・素材の理解 ・加工基礎 ・食卓小物の企画 ・制作実習 ・発表	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・素材の特徴や安全な取り扱い方法を理解している。 ・機材や工具を適切に使用し、基本的な制作技法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・使用する場面や使う人を想定しながら、形や色を工夫している。 ・制作意図や工夫した点を、自分の言葉で説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・制作活動に主体的に取り組み、試行錯誤しながら作品を改善しようとしている。 ・他者の意見を取り入れながら、より良い表現を目指している。 ・発表や鑑賞を通して、自分や他者の作品の良さを認め、学びを深めようとしている。	○	○	○	35
2 学期	単元：食に関わる金属デザイン	・素材の理解 ・加工基礎 ・食卓小物の企画 ・制作実習 ・発表	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・素材の特徴や加工方法、安全な取り扱い方法を理解している。 ・道具を適切に使用し、目的に応じた形に加工することができる。 【思考・判断・表現】 ・使用する場面や使う人を想定しながら、形や色を工夫している。 ・制作意図や工夫した点を、自分の言葉で説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・制作活動に主体的に取り組み、試行錯誤しながら作品を改善しようとしている。 ・他者の意見を取り入れながら、より良い表現を目指している。 ・発表や鑑賞を通して、自分や他者の作品の良さを認め、学びを深めようとしている。	○	○	○	35
3 学期							

[illegible]

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 工業（デザイン） 科目 デザイン研究

教科：工業（デザイン） 科目：デザイン研究 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 2・3・4組 自由選択 生徒

教科担当者：（ 関谷 ）

使用教科書：（ デザイン実践 ）

教科 工業（デザイン） の目標：

- 【知識及び技能】様々な材料や表現手段から、デザイン力を身に着ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】学んだことをふまえてイメージし、カタチにすることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】作品の完成度を高めるため、最後まで課題に取り組む。

科目 デザイン研究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①本時の学習内容をプリントに記入することができる。 ②道具を正しく使用することができる。 ③作品を完成させる。	①各素材や表現技法を理解することができる。 ②基本条件をふまえたデザインを描くことができる。 ③作品を丁寧に仕上げるることができる。	①説明を集中して聞くことができる。 ②教員と対話し、より良いデザインを模索しようとしている。 ③制作に集中して取り組んでいる。 ④片付け掃除に取り組んでいる。 ⑤反省・感想をプリントに記入することができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	単元：デザインシンキング	・アイデア出しの練習 ・ブレインストーミング 演習	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・オリエンテーションを都度確認し理解する。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、紙への表し方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良いデザインを模索する態度を養う。	○	○	○	30
2 学期	単元：デザインシンキング	・アイデア出しの練習	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・オリエンテーションを都度確認し理解する。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、紙への表し方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良いデザインを模索する態度を養う。	○	○	○	30
3 学期	単元：1年間のまとめ	・制作した作品をまとめる	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・オリエンテーションを都度確認し理解する。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、紙への表し方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	10

		【主体的に子育てに取り組む態度】 ・教員と対話し、より良いデザインを模索する態度を養う。					
						合計	
						70	